

■米国：サンオノフレ閉鎖の仲裁裁定、三菱重工に1億2500万ドルの賠償請求

国際商業会議所（International Chamber of Commerce）は2017年3月13日、サンオノフレ原子力発電所閉鎖の原因が日本の三菱重工業（MHI）の不完全な蒸気発生器の供給にあったとする訴訟に関し、MHIがサザンカリフォルニアエジソン社（SCE）に1億2500万ドルの賠償金を支払う仲裁裁定を下した。同賠償額はSCEが請求していた76億ドルからすると、ほんのわずかであった。供給契約ではMHIの責任上限は1億3,700万ドルとされていたが、SCEはMHIの詐欺と重大な過失が発電所に壊滅的な影響を及ぼしたとし、巨額の賠償を請求していた。ロサンゼルスとサンディエゴの間に位置する同発電所は、新しい蒸気発生器のチューブ漏れの後、2012年に停止された。その停止は一時的だと考えられていたが、再開の安全性をめぐる環境保護派との戦いの後、2013年にそのまま閉鎖された。